

## 決算審査

各種会計決算	審査期間	令和5年6月14日～令和5年8月18日
基金運用状況	審査期間	令和5年6月14日～令和5年8月18日
公営企業会計決算（簡易水道事業、病院事業、水道事業、下水道事業）	審査期間	令和5年6月1日～令和5年8月18日
財産区会計決算	審査期間	令和5年6月14日～令和5年8月31日

決算審査では、各種会計決算（一般会計・特別会計）、基金運用状況（土地開発基金ほか1基金）、公営企業会計決算（簡易水道事業・病院事業・水道事業・下水道事業）、財産区会計決算（井川財産区・両河内財産区）を審査しました。

公営企業会計決算のうち、簡易水道事業会計、水道事業会計及び下水道事業会計の決算その他関係書類が、重要な点において、法令に適合し、かつ正確であることが認められましたが、病院事業会計においては、賞与引当金及び法定福利費引当金の一部について、本来は当年度負担相当額である4か月分を計上すべきところ、算定誤りにより、12か月分を計上していたため、利益が過少に計上されていました。

また、病院事業会計及び下水道事業会計では、議会の議決を経なければ流用することのできない経費である職員給与費のうちの報酬について、他の経費との間で議会の議決を経ることなく流用されていました。両事業会計とも、認識が不十分であったことにより当該報酬は職員給与費には含まれないものと誤信していたため、今後は制度を正しく理解し適切に対応することが求められます。

なお、各種会計決算及び財産区会計決算については、重要な点において決算その他関係書類が法令に適合し、かつ正確であることを認めました。また、基金運用状況についても重要な点において計数が正確であると認められ、基金の運用が確実かつ効率的に行われているものと認めました。

### ●主な意見（各種会計決算）

各種会計の決算状況を踏まえた本市の財政運営は、ロシアのウクライナ侵攻長期化の影響や新型コロナウイルス感染症の影響も続く厳しい社会情勢の中でも市税収納率は税務部門の機能別役割分担に応じた組織的取組により過去最高を記録し、支出面では令和4年台風第15号による被害等への対応のため災害復旧費等が増加した中でも、臨時財政対策債を除いた市債残高を減少させるとともに、基金残高を増額した上で、一般会計においては前年度並みの68億円余の実質収支を計上するなど、評価できる結果でした。しかしながら、今後も物価高騰等の影響が懸念され、4次総の中で大型投資事業も予定されていることから、厳しい財政状況が続くことが見込まれ、健全な財政運営の維持のために不断の努力が求められるところです。

本年度の予算執行状況については、3次総の総括及び4次総の策定状況について確認した上で、3次総の重点事業の中から抽出して確認を行いました。いずれの事業も定められた方針に従い、おおむね適正に執行されていました。

事業の実施に当たっては、成果指標及び数値目標を設定し、事業実施の効果を検証してPDCAサイクルを繰り返すことにより常に計画を見直し改善していくことが求められるところですが、設定した成果指標そのものが適切であるかという課題が残るところであり、今回確認した個別の事業においても、効果測定の点において疑問を感じるものもありました。

厳しい財政状況の下では、事業に無駄がないか、市民ニーズに合致しているかという点の見極めが一層重要になるところであり、市民への説明責任を果たすためにも、適切な効果測定及び検証が行われることを望みます。

3次総における成果及び見えてきた課題を4次総に活かし、今後、より効果的に計画の推進がなされることを期待します。

## ●主な意見（公営企業会計決算）

### 【簡易水道事業会計】

令和4年度簡易水道事業の決算については、経常損益が615万円余の黒字となっていました。簡易水道事業会計に充てるための一般会計補助金を除いた実質損益は7,954万円の赤字となっていました。具体的な決算状況を見ると、前年度に比べ総収益が161万円（1.2%）増加し、総費用が310万円（2.3%）減少したことで、前年度からの繰越欠損金368万円が解消したことに加え、令和4年度末の当年度未処分利益剰余金が247万円となっていました。

また、令和4年度の漏水量は28,418<sup>m</sup>で、前年度の漏水量51,966<sup>m</sup>に比べ23,548<sup>m</sup>（45.3%）の減と大幅に減少していました。漏水量の減少に向けた取組について確認したところ、漏水研修による技術力の向上や遠方監視による配水量の監視などの従来からの取組を強化することに加え、住民への漏水情報提供依頼のチラシの配布や過去の漏水箇所を地図にプロットし見える化する対策を令和4年度から新たに実施したとのことでした。

漏水量を削減し有収率を向上することは経営面の重要な課題であることに加え、道路陥没等の事故を防止する観点からも引き続き漏水防止に向けた対策を進めていくことを望みます。

### 【病院事業会計】

令和4年度病院事業の決算については、経常損益が5億6千万円余の黒字となっていました。収支不足補填のための一般会計補助金を除いた実質損益は7億4千万円余の赤字となっていました。具体的な決算状況を見ると、前年度に比べ総収益は3億1千万円余（2.4%）増加したのに対し、総費用は4億5千万円余（3.6%）の増加となり、総費用の増加が総収益の増加を上回りましたが、前年度と同じく新型コロナウイルス感染症患者のための病床確保などに伴う補助金を臨時に収入した結果、累積欠損金残高は7千万円余となり、前年度対比で5億6千万円余（純利益と同額）減少していました。清水病院は、令和4年度策定の「静岡市立清水病院経営計画」に基づき「2026年度（令和8年度）までの実質収支の黒字化」に向けて経営改善に取り組んでいますが、黒字化に向けた道のりは当初予定よりもやや遅れていると捉えていました。赤字補填を伴う病院経営は、病院事業に対する多額の補助金を支出する一般会計にとっても大きな負担となっていることから、今後も経営改善に努め、目標が達成されることを期待します。

また、清水病院においては、源泉所得税の納付遅延に対する延滞税及び不納付加算税

として合計373万円余が課されることとなり、令和4年3月末には筋弛緩剤（ロクロニウム）1本（50 mg）の紛失という事故も発生しています。これらの事故は令和4年度の内部統制評価において「重大な不備」と判断されており、一定の成果を上げている経営改善に水を差すものと言わざるを得ないことから、清水病院全体で「同様の誤りを発生させないための対策」と「同様の誤りが発生した場合に、速やかに把握できるようにするための対策」を構築することで、事務事業事故の減少を図ることを望みます。

### 【水道事業会計】

令和4年度水道事業の決算については、前年度と比べて減収・減益となったものの、16億円余の純利益を計上しており依然として良好な経営状況でした。しかし、有収水量の影響を受けにくい基本料金の改定により給水収益は増加しているものの、有収率は毎年減少し続けており、令和4年度は平成30年度と比較して5.3ポイント低下した82.3%となっていました。老朽管が原因となる漏水の発生を抑制するためには水道管の更新が必要となり、将来にわたり多額の投資が見込まれることから、効率的な経営に向けた更なる取組が望まれます。

また、水道料金の改定については、昨年実施した令和3年度の決算審査では、水道管を更新するために水道料金を増額したものの、老朽化対策の発注量が計画を下回った結果、留保資金が計画を上回ったため、水道料金を更に増額すれば市民理解を得ることが困難であるとされていました。

しかし、令和7年度及び11年度に15%の増額を見込んでいたことから老朽化対策の実施状況を確認したところ、水道管更新の事業量は計画値を下回る状況が続いているとのことでした。

事業評価の側面からは、現時点では料金改定による事業効果が十分な結果に結びついていないため、入札不調対策を推進することなどにより、計画事業量を確実に達成していくことが求められ、その上で、更に水道料金を増額するのであれば、コストが高騰していることやどのような経営努力をしているのかということ等について、分かりやすく説明し、料金改定について理解が得られるよう取り組んでいくことを期待します。

### 【下水道事業会計】

令和4年度下水道事業の決算については、有収処理水量1 m<sup>3</sup>当たりの処理損益が前年度対比9円34銭悪化したことなどにより、当年度純利益が前年度対比5億8千万円余の減益となる8億1千万円余となっていました。これは、物価高騰に伴う施設の維持管理費が増加したことが原因とのことですが、当面この状況が続く見通しである上に、脱水汚泥の肥料化推進等により今後更なる費用の増加も懸念されることから、下水道事業の現状に対して市民の理解が得られるよう、中期経営計画や経営戦略上の投資・財政計画などについて、迅速かつ丁寧に説明していく必要があります。

また、浸水対策事業は、被害の軽減が見込まれる地域と、工事を行う地域とが異なる場合もあり、地域住民に対する丁寧な説明が求められる事業であります。概ね計画通りの進捗状況にあることは、職員の日々の地道な努力による成果と認識しています。

温暖化の影響もあって気象災害が激甚化・頻発化する中、整備水準の変更についても検討を進めているとのことですが、浸水対策事業の必要性はますます高まっていることから、今後も適切な整備水準の下、浸水対策事業が着実に執行され、浸水被害が軽減されていくことを期待します。